

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000721		
法人名	株式会社 Human_Line		
事業所名	グループホーム 自由の丘 (1階)		
所在地	小樽市長橋2丁目22番4号		
自己評価作成日	平成25年10月1日	評価結果市町村受理日	平成25年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海を一望できる高台にあるホームで、毎年夏になるとホーム前の芝生では焼肉パーティが恒例となっています。そこには穏やかに自分らしく過ごされている笑顔の入居者様の顔があります。そんなホームが自由の丘です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tue&JigyosyoCd=0172000721-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25 年 11 月 27 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームの最も優れている点は、災害に対する細心の対応にあるといえます。回を追う毎に臨場感と緊迫感を失わないよう反省を繰り返す防災訓練は、火災に限らず地震災害など広範囲の想定で避難訓練が行われています。職員による毎月の抜き打ち避難訓練も真剣に行われて「これで安心・・・」と言う慣れの払拭に役立っています。また、近隣のグループホームとの相互協力体制を確立しつつ地域住民の協力も要請するなど、利用者を災害から守ろうとする法人の強い意識、そして職員の使命感が感じられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員のネーム裏に理念を入れ普段から読み返している。	管理者及び職員は、理念に謳われる地域に溶け込んだ交流を深めるため、利用者の目線に立った支援を日々心がけ実践にしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の廃品回収や子供神輿に参加している、近隣のグループホームの夏祭りに入居者様と共に参加し交流を図っている。	町内会の深い理解の下、町内清掃や廃品回収など積極的に参加しています。子供神輿などは急な坂道を厭わずホームにも訪れてくれており、利用者との温かな交流が行われています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方々に回覧板などをまわし行事のお知らせなどをして参加して頂いている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回行い助言を頂き報告書をまとめ報告書をもとにサービス向上に職員一同努めている。	2ヵ月毎に定期的な会議が開催されており、町内会長、市の介護保険課職員、地域包括支援センター職員、利用者及び家族など多彩な出席者により質疑応答が交わされて内容の濃い会議となっています。会議の議事録は家族の下に送付されています。	地域に開かれた理想とする関係が築かれて、ホームの運営に役立っていますが、家族の出席が余り多いとは言えません。今後はこの会議の持つ大切さを家族に理解を求めながら、より多くの出席をいただく取り組みが期待されます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と電話などで連絡を密に取りながら相談しました出向いたりもしています。	市の担当者の理解により様々な機会を通して指導、相談が行われており、ホームの運営に役立っています。市が主催するグループホームを対象とした会議や協議会での意見交換など、サービスの質の向上に向けた連携と協力関係が築かれています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会に参加し、研修報告書を書いて頂き回覧として職員全員に認識してもらう。また研修内容を職員に話しています。	外部研修などで得た情報を内部研修等に職員は情報共有できる仕組みが構築されており、身体拘束のないケアの実践が日常的に行われています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加して全体会議で話し合いをしケアの見直し、毎日の自分チェック表を作成し1日のケアを振り返る。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人が必要としている入居者様がおられるので後見人の方と話し合いをし支援している、		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、わかりやすく説明しご本人やご家族の希望にそって支援している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	表情や言動から入居者様の不安等感じとり気づいたことがあったらカンファレンスをおこなっている。また面会時御家族と話しをしたり意見箱の設置もしている。	家族とは、訪問時や電話での会話の中から意見や要望を把握して運営に反映するよう努めています。些細なことも聞き流さず日誌や申し送りの中で伝達できる習慣が築かれています。今後は「意見箱」の有効的な活用を検討して、ホームの運営に参加していただく方策を検討することとしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との会話や表情を見て気づいた事があったら意見交換、コミュニケーションを図っている。	代表者及び管理者は、職員の意見や要望を聞き出す機会を捉えて、サービスの質の向上に努めています。ユニット間での話し合い、合同会議での活発な意見交換によりホームの運営に寄与しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心をもって働けるよう勤務状況を把握し個々により給与水準、仕事を一つ一つまかせるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等に参加した職員は報告書として提出し、提出後職員の前で発表している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に出席したり、他のホームのお祭りに参加し、相互間研修にも出席し交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安等を傾聴し、安心して過ごして頂けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望がある時は要望に合うようにしている。面会の際にコミュにケーションを取り要望等を傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様に対する希望を実現できるように他の入居者様も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽を共にして心と心のかよった関係を築くような対応してをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子として文章化した日々の言動等を家族に送り参加行事がある時は前もってお知らせしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に応じて買い物や映画等外出支援している。	ビデオショップに出かける、映画を見たい、墓参り、祭り見物など利用者の希望に添いながら馴染みの関係維持に努めています。また、ドライブの中で以前に住まわれていた住宅近辺を迂回するなどして、利用者の思い出話を引き出す機会作りとしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が食卓テーブルに着かれている時、職員が会話にまざりコミュニケーションが上手いくように支援してしる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている入居者様のお見舞いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアに本人の希望や意向を表情や行動からくみ取り、本人の思いを尊重するよう努めている。	利用者との寄り添う暮らしの中で、会話から今抱えている思いや意向の把握に努めています。会話が困難な場合は表情や些細な行動の中から把握をするように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴に目を通したりしてまた御家族から情報を得て入居者様にあったサービスを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションを大切にし、日常生活のなかで現状把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良い生活を営めるようカンファレンス、サービス担当者会議で話し合い現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランに基づく日々のモニタリングが詳細に行われ、家族からの情報や詳細なケース記録、申し送りなどを基礎としたカンファレンスにより適正なケアプランが見直されています。特に医療連携に伴う医師及び看護師の指導や情報がプランに反映され内容の濃いプランとなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に個別記録を記入し、申し送りノートを活用し職員間で情報共有し介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、病院送迎、24時間の面会など柔軟性を持ち支援とサービス向上に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイケアを活用し本人が心身の力発揮し楽しむように支援している。また近隣グループホームのお祭りに参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に応じてかかりつけ医との円滑な関係を築き納得して頂けるような医療を支援している。	従来のかかりつけ医への受診は、利用者及び家族の希望を取り入れて継続した支援を行っています。また、三つの協力病院による定期的な検診により、利用者の体調維持並びに的確な指導が行われ家族の信頼を得ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の現状を把握し適切な処置が出来るように看護師、職員と話し合い24時間体制で連携をとって行っています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報を提供し医師と情報交換して良い関係づくりを行っています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期段階で医師、看護師、家族と話し合い十分に説明したうえで今後のチームケアに取り組んでいる。	「重度化した場合の指針」並びに「看取りに関する方針」など、細部にわたるマニュアルに基づいて家族、医師及び看護師等は十分な話し合いを行っています。ホームとしては、安心できる支援体制の構築のためターミナルケアのスキルアップに努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にAED講習等を職員に行い実践力を身につけた月に1～2回火災シュミレーションを行っている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実践さながらの訓練を定期的に行っており近隣グループホームとの協力のもと避難場所を確保している。	ホームでは、火災に限らず地震を含めた広範囲な事態を想定した避難対応が実施されています。特に夜間を想定した訓練では、毎月1～2回の抜き打ち訓練が行われ、緊急時に適応した体で覚える真剣な訓練が継続されています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりを敬い信頼関係を築いたうえで言葉を掛け対応しています。また不適切な言葉遣いは職員同士注意するようにしている。	職員は、利用者の人格を尊重しつつ、プライバシーの確保のため言葉かけに細心の配慮を払い支援しています。職員は「自分チェック」で自らの行動を振り返り、言葉かけに間違いがなかったのか反省をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	提案し入居者様御自身に選んで頂いている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の立場なり考えひとり一人の思いを大切に希望に沿った買い物、銀行、市役所に行ったりと支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容や毎日の洋服選びを支援しています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、嫌いな食べ物の中には、代替え品を用意し。食事の準備、片付けも行って頂いています。	献立及び食材の調達は、業者に委ねられています。調理は職員が行い利用者の状況に合わせた細やかな配慮が見られます。職員は利用者とともに食事をしており、和やかな雰囲気を演出しながら食事を楽しむことができる支援が行われています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量を把握し、食べられない方には少なく盛りきれいに食べて頂けるよう状態に応じて摂取して頂いて記録している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方は自力で口腔ケアをしてもらい出来ない方には介助で行っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しながら、排泄パターンの把握、自立にむけたトイレ誘導など支援を行っています。	排泄パターンを詳しく記載されたチェック表により、それとない言葉かけを行いながらトイレ誘導を行っています。リハビリパンツやオムツの使用はできるだけ夜間に着用しトイレでの自立した排泄への支援が行われています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し栄養士による献立の工夫やラジオ体操といった予防に取り組んでいます。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に合わせて午前、午後と入浴を楽しめるよう一人ひとりの意向に沿った時間、曜日に合わせるように入浴して頂いています。	利用者の希望と体調にあわせて、午前または午後に分けて入浴を楽しんでいます。以前は毎日の入浴希望者も居ましたが現在では行われていません。利用者によっては浴槽へ入る際に2名の職員による介助が行われています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない入居者様にはあたたかい牛乳を飲んで頂いたり居間でお話したりしています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の、効能、副作用を職員一人ひとりが表を用いて理解しており服薬時は本人と名前を声を出して確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日1日の生活に張り合いや喜びをもてるようおしぼりたたみ、洗濯物たたみ、テーブル拭きなど一人ひとりお手伝いして頂き役割をもって頂く様にしています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って外へ出掛けたり日光浴をして頂いています。また温泉、映画などへ行きたいということがあれば計画をたてて支援しています。	温かな陽射しの好天時には、ホーム前の広場や野菜畑での外気浴を楽しんでいます。また、利用者の希望も入れた年間計画により近隣のドライブ、回転寿司などの外食、花見、ぶどう狩り及び初詣など多彩な外出の機会を作りながら閉じこもり防止に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院やデイケアへ出掛けられた帰りには、御本人様の所持しているお金で買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人の方にも電話を掛けたり手紙を出したりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるように季節の花を飾ったりして居心地よく過ごせるように工夫しています。	ゆったりとした食卓スペースの確保のため、ソファなど寛ぎのスペースが手狭になっていますが、ホーム自慢の小樽の港がすっぽりと眺められる窓辺からは暖かな陽射しが注ぎ込んでいます。「一日眺めても飽きない・・・」とつぶやく利用者も居るなど居心地の良い共用空間での静かな時間が刻まれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のなかにも独りになれる場所が作れるように廊下のはじめに椅子やソファを置いて工夫しています。また喫煙される入居者様には喫煙場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や物を御自宅から持ってきて頂いて御本人様が居心地よく過ごせるよう工夫しています。また仏壇を持ってこられている入居者様もいる。	男性の居室はシンプルな感じで、まとまった空間となっています。女性の居室の場合は持ち込まれた家具、調度品も賑やかに配置されており、壁いっぱい貼られた孫の写真に囲まれた居心地の良い安心の空間となっています。パネルヒーターによる暖房で室温も的確に管理されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安定な歩行の入居者様には手すりを使用させて頂いている。		